

おおたぎりがわ いすじ
太田切川の井筋

扇状地を潤す用水路

駒ヶ根市や宮田村は太田切川の扇状地上にあり、水を得ることが容易ではないため、農業用水や生活水の確保に苦労してきた。そこで、扇状地上方の上流側で取水し、そこから用水路を掘って水を兩岸の村へと送ることが考えられた。江戸時代には、太田切川の右岸に上の井、下の井、下平井、左岸に宮田井(黒川井)、丸山井の五用水がつけられた。



宮田井(黒川井)と宮田井取水口
ヒゲスリ岩と呼ばれる大きな岩(岩盤)
に導水トンネルを掘り、取水した



等高線に沿って段丘上を灌漑
している上の井(横井)



切石(切石公園)の脇を流れる下の井

information

□ アクセス

駒ヶ根ICから5km
車→10分

□ 所在地

駒ヶ根市、宮田村



(写真の)上の井(横井)
(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)



太田切井

取水口の位置により、太田切川上流の「上の井」、下流の「下の井」の名があるが、両方をあわせて「太田切井」と呼ばれることもある。この用水の開削により、上穂・赤須(駒ヶ根市)などで広く米作りが可能になった。

横井
(上の井)

上の井は、取水口から約1kmは勾配に沿って流下するが、後に流れを南に変え、扇状地を横切るように木曾山脈山麓をほぼ等高線に沿って導き、広く流域へ給水している。そのため別名「横井」とも言われる。